



次期BINDS事業への期待

Co-creation 

2026年3月24日

日本製薬工業協会 研究開発委員会 創薬研究部会長
高鳥登志郎

1. 我が国における生命科学研究、創薬研究を支援する基盤としてさらなる充実を期待
2. BINDS II 期で進んだユニット連携・事業間連携をさらに推進。AMEDの他の創薬支援事業との連携も重要。創薬プロセスの進展に応じて必要な技術をつなげるなどの適切なサポートを行う伴走支援、プロジェクトマネジメント体制
3. 次世代のモダリティ（次世代抗体、中分子、ペプチド、核酸、糖鎖、細胞等）への支援の充実－構造解析、物性評価、薬物動態、安全性、DDS、製造（GMP, non-GMP）等
4. AIを活用した創薬支援基盤。活用するデータ、データ基盤の整備－NB RP, NLDPとも連携
5. 動物実験代替技術（オルガノイド、MPS、AI等）の開発、評価系の確立－NB RP, NLDPとも連携

6. 老朽化が課題である汎用機器について最新版へのアップデート、技術職員の整備・配置を含む維持管理 – 精度の高いデータの取得、ハイスループット性の向上
7. 文部科学省全体として、共用基盤となる最先端機器※を戦略的に導入し、アカデミア・産業界の利活用をBINDSおよび他の共用プラットフォーム事業等で推進
※創薬を志向した量子コンピュータ（アプリケーション含む）、高輝度・高指向性放射光施設（SPring-8-II）、超高磁場NMR（1.2GHz以上）、次世代シーケンサー（ロングリード、トランスクリプトーム含む）、高分解能・高感度質量分析 等
8. 人材育成：最先端研究機器を扱う技術人材、AI人材・データサイエンティスト、コーディネーター人材 – キャリアパスの充実、産学間の流動性の向上、人材交流等
9. 企業利用の促進 – 企業の知財保護や競争力維持の観点で、成果非公開での利用の仕組みの向上等